
クリスマスなんだし、こういうのもありなんじゃない？

気まぐれな黒猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスなんだし、こういうのもありなんじゃない？

【Nコード】

N1375J

【作者名】

気まぐれな黒猫

【あらすじ】

クリスマスだからって幸せな奴ばかりだとは限らない。

午前9時、欠伸を噛み締めながらもぞもぞとベッドから降りる。

「だあゝ・・・ねみい」

低血圧でまったく頭が回ってない状態で動きだした物だから半開きのドア縁に見事に激突した。

「~~~~っ!!」

勢いこそ無かった物のぶつかった場所が悪かった。

ちょうど角のところだ。

流石に痛みによって強制覚醒させられた俺はぶつけたところを擦りながらも自分のパソコンの前につく。

「あゝ・・・今日もバイトだ。そういやケーキ作ってこいとか言われてたな」

ぶつくさと独り言を言いながらキーボードに指を走らせて行く。

「つつか、クリスマスにバイトに入ってる時点で一人身だつての、わざわざ彼女とか居ないの？ って聞いてこないで欲しいわゝ」

部屋の中に主の独り言とタイピング音だけが響く。

さて、一通り片もついたことだし、ケーキでも作ろうかね

んでもって材料を買って一度失敗しつつも何とか完成させた。

なんだか全身から甘ったるい匂いがする。

材料費だけで3000円飛んだっての……

シャワーを浴びつつバイトのしたくをしなきゃな〜といつも通りに考えていた。

* * *

さて、そんな頃ここ、小説世界では各小説の主人公たちが集まってパーティーを開いていた。

「メリークリスマス!!」

「ふ〜、やっぱりお酒だね〜。ジュースだと物足りないや」

「こらこら、一応君たちは未成年でしょう」

「いや、そういうハクヤも未成年だろう?」

「……僕は住む世界が違うから大丈夫さ」

12〜13歳くらいの女の子、つきねねのせ月城潤夜がグイッとコップに注がれたシャンパンを飲み干す。

「まーまー、せっかくのクリスマスに硬いこと言わない」

「そうだね〜、こんなときくらいはっちゃけなきゃやってらんない

よね」

貴族のような優雅さをまとい、かつおしとやかな麗人が潤夜に便乗する。

「なんだ吹雪、潤夜とならんじやって……フム、美女と美少女のツーショットか、なかなかの目の養蜂になるな」

「ちょ！ 僕は男だよ！」

美女と言われた加也^{かやのふぶき}乃吹雪が、深泉鏡^{ふかいずみあきり}に抗議の声を上げる。

その横で、仲むつまじく寄り添いながらちびちびとシャンパンを飲んでいる藤崎賢渡^{ふじさきけんと}と九重雫^{ここのえしずく}に、半実体化したルシファーが絡む。

「お二人さんお熱いねえ」

「ちょっとルシファー！ やめなよそういうちやち入れるの！ ごめんね二人とも、僕達のことは気にしないでね」

「ああ、はなから気にしてなどいないさ」

そう言ってさらに体を寄せ合う二人に、鏡が暴走した。

「世の中のカップル撲 滅！！」

「ちょ、誰かそれ止めて！」

慌てて声を上げて鏡を追おうとしている吹雪を潤夜が飛びついて動きを止める。

「面白そうだから止めるな同士」

「同士じゃなよ、僕は男だ！」

「俺だってそうだよ！」

「元でしょー!!」

だんごになつて二人を他所に、賢渡たちに襲い掛かった鏡は

「邪魔しないでー!!」

と、雫のジャブと右ストレートの前にあっけなく沈んだ。

「なかなかいいパンチだ」

「だーははは、鏡よええ〜」

雫のパンチに感嘆するハクヤに、沈んだ鏡を見て爆笑するルシファ
ーとだいぶカオスなことになっている。

「潤夜ちゃんお酒臭！　ちょっと！　鬼殺しなんて持ち込んだの！」

「あ、すまん俺だ」

と賢渡が悪びれもなく片手をあげる。

「もちろん俺は混ぜたぜ！　そっちのほうが面白いだろ？」

ルシファアがふよふよ浮きながらイタズラが成功した子供のような

顔で笑っている。

そんなどんちゃん騒ぎが起きている間、当の主は必死にバイト中だ
ったとさ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1375j/>

クリスマスなんだし、こういうのもありなんじゃない？

2010年10月17日01時50分発行